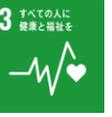


市長マニフェストの取組状況(令和3年度の主な実績)

ビジョン1 『ひと』を育む

<p>安心して子どもを産み、育てることができる環境づくり</p>	<p>母子保健と子育て支援の一体的・総合的な実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○妊娠期から子育て期に至る切れ目ない子育て支援を行い、育児不安の解消や虐待の予防を図るため、母子健康包括支援センター「クローバー」にて、妊娠・出産・子育てに関する相談に応じ、必要に応じて支援プランを作成し、情報提供や助言、保健指導などを実施しました。 ○不妊治療費の助成について、所得要件を撤廃するとともに、特定不妊治療費については、助成回数を拡充しました。 	
	<p>産後ケアの拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○お母さんと赤ちゃんの心身のケアや育児サポートを行い産後の生活を支援する「産後ケア事業」において、従来の「宿泊型」、「訪問型」に、助産院や医療機関に通所する「通所型」を追加し、支援体制を拡充しました。 ○産婦健康診査事業において、産後うつ予防や早期発見の取り組みを強化しました。 	
	<p>保育体制の強化と質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保育ニーズに基づき、0～2歳児を対象とした適切な保育定員を確保するため、市が認可した地域型保育施設の整備が完了しました。 ○保育の「質」の向上のため、市内保育所等に勤務する保育士を対象とした研修会や勉強会を実施しました。 	  
	<p>子どもの貧困対策の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○市内で子ども食堂を運営する団体に加え、子ども宅食を運営する団体にも対象を拡充し、その運営経費の一部を助成しました。 	  
<p>地域が誇る資源を活かした教育環境づくり</p>	<p>「かかみがはら寺子屋2.0」のさらなる拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症の影響により計画どおりに各事業が実施できなかった一方で、コロナと共にあるという新しい時代のあり方として、新たに「オンライン寺子屋事業」を実施しました。 ○コロナ禍においても、工場見学を体験できる機会を提供するため、オンライン寺子屋事業として実施し、「航空機産業」、「自動車産業」、「生活産業」の3分野の製造現場の動画を制作し、市ウェブサイトに掲載するとともに、市内小中学生に配布したタブレット端末で視聴できるようにしました。 	  
	<p>コミュニティ・スクール事業の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域とともにある学校づくり」を推進するため、義務教育9年間を通して地域全体で児童生徒を育むコミュニティ・スクール事業について、引き続き、すべての中学校区で実施しました。 	  

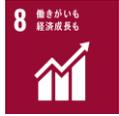
<p>確かな学力と豊かな人間性を育む教育環境づくり</p>	<p>小中高一貫の特別支援学校の建設</p>	<p>○令和7年度の開校に向けて、校舎など建築物の基本設計が完了しました。また、用地の取得を進めるとともに、敷地造成・グラウンド・外構整備の設計を進めました。</p> <p>○設計の参考とするため、特別支援教育に関する有識者や保護者等が参加する座談会を開催しました。</p>	
	<p>地域の核となる学校の存続と活用</p>	<p>○将来を見据えた学校施設のあり方や基本的な整備方針を策定するための組織体制について検討を行いました。</p>	
	<p>I C T機器を活用した学習指導の充実</p>	<p>○小中学校全ての児童生徒に配布した学習用タブレット端末とネットワーク環境を有効活用するため、新たに「I C T支援員」を配置し、I C T機器を活用した学習の一層の充実を図りました。</p>	
	<p>不登校対策の強化</p>	<p>○教育支援センター「あすなろ教室」や「さくら」において、様々な理由から学校に行きづらさを感じている児童生徒が安心して活動できる居場所を提供し、社会的自立に向けて支援を行いました。</p> <p>○「さくら」を現在の「なか」と新たな「まえみや」の2拠点に拡充するため、施設改修の設計を実施しました。</p>	

ビジョン2 『くらし』を守る

<p>人生を充実させる「健やかで元気なまち」づくり</p>	<p>防災機能を併せ持つ新総合体育館の建設</p>	<p>○新総合体育館建設基本構想・基本計画策定委員会を開催し、整備候補地の選定、施設規模、事業手法等、新総合体育館整備の基本的な考え方をまとめる「基本計画」の策定を進めました。</p>	  
	<p>市民公園リニューアル整備</p>	<p>○「パークリノベミーティング」(市民の皆さんが参加し、市民公園でやりたいことを気軽に話し合う会議)を開催し、市民公園の使い方などについて市民ワークショップを実施するとともに、これまで出された公園利用のアイデアについて市民公園で実証実験を行いました。</p>	 
<p>地域で安心して暮らせる環境づくり</p>	<p>フレイル予防事業の推進</p>	<p>○ボランティアハウス等の通いの場に保健師や管理栄養士等の医療専門職が向き、フレイルチェックやフレイル予防の普及・啓発、健康教育・相談等を実施しました。 ○市と市民が一体となってフレイル予防に取り組むため、「フレイル予防サポーター養成研修」を実施し、市民サポーターを養成しました。 ○フレイル予防の重要性を市民に広く周知するため、中部学院大学と連携し、フレイル予防講演会を実施しました。</p>	 
<p>地域包括ケア体制の構築</p>	<p>ひとり親家庭への支援</p>	<p>○認知症の方やそのご家族が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、認知症者の外出支援として、「見守りシール配布事業」と「認知症者個人賠償責任保険加入事業」を新たに開始しました。 ○認知症高齢者や知的・精神障がい者の生命、身体、財産等の権利を守るため、成年後見支援センターにおいて、成年後見制度の普及啓発や相談を実施しました。 ○市民後見人養成講座の修了者が、より専門的な知識を得るためのフォローアップ研修を実施しました。</p>	  
<p>救急医療体制の維持</p>	<p>ひとり親家庭への支援</p>	<p>○ひとり親世帯の高校生の通学費や、養育費に関する公正証書などの作成に必要な経費の一部を補助する制度を新たに創設しました。 ○ひとり親世帯において、親が就労に必要な技能や資格を取得する場合などに給付金を支給しました。</p>	  
<p>様々な災害に備える安全・安心づくり</p>	<p>救急医療体制の維持</p>	<p>○市内唯一の総合病院として市民病院の役割を担っている東海中央病院における救急医療体制の維持を目的として、その運営に係る経費や高度医療機器の導入に係る経費の一部を補助しました。</p>	
	<p>新庁舎の完成</p>	<p>○免震構造を備え、災害対応の拠点となる新庁舎高層棟が完成し、供用を開始しました。 ○新庁舎の全体完成に向けて、旧庁舎の解体工事に着手しました。</p>	  

<p>防災・災害対策の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○大規模災害の発生に備え、避難所などに備蓄している食料、生活物資、資機材などの充実を図りました。 ○一次避難所となる小中学校のうち、マンホールトイレが設置できる下水道工事が完了した学校（6校）について、マンホールトイレを購入するなど、避難所開設時のトイレ環境が充実したものとなるよう備えを拡充しました。 ○二次避難所にコンテナ式の防災備蓄倉庫を設置し、備蓄の拡充に対応しました。 ○災害対策本部機能の強化のため、市内の災害情報の情報共有などが円滑に実施できる新たな防災システムを導入しました。 ○県による土砂災害警戒区域の追加指定に伴い、土砂災害ハザードマップの追加作成を行い、関係自治会などに周知しました。 ○火災や水難事故、土砂災害などの各種災害現場において、上空から立体的に情報収集活動等を行うことで、災害現場における効果的な活動の展開の支援ができるよう「無人航空機（ドローン）」を導入しました。 	 
<p>消防団活動の支援強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○災害及び火災に係る出動手当を引き上げ、消防団員の処遇改善を図りました。 ○消防団車庫、車両、小型動力消防ポンプの計画的な更新、岐阜県消防学校への派遣等により、消防団活動の環境整備や技術向上を図りました。 	 

ビジョン3 『まち』を支える

<p>「ならでは」、「らしさ」を活かしたまちの魅力づくり</p>	<p>東京オリンピック・パラリンピックの機会を活かした事業の実施</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症の影響によりパブリックビューイングによる観戦企画は中止となりましたが、市内での聖火リレー、トーチの小中学校巡回、女子ホッケーオランダチームと市内小学生のオンライン交流、パラリンピック聖火フェスティバルなどを実施しました。</p> <p>○ホストタウン交流として、オランダからは交流促進の願いを込めて、チューリップの球根が贈られ、小学校などに配布しました。</p>	 
	<p>木曽川を核とした観光施策の検討</p>	<p>○木曽川中流域の自治体や関係機関等にて構成する「木曽川中流域観光振興協議会」や「木曽川中流域かわまちづくり協議会」において、木曽川中流域の魅力向上や観光振興について意見交換を行いました。</p> <p>○大河ドラマ「鎌倉殿の13人」を契機として、承久の乱の舞台となった本市の歴史的魅力を全国に発信するため、パンフレットの作成や前渡地区内の案内看板の設置、トイレ改修等を行いました。</p>	  
	<p>特産品「ニンジン」を活かした事業の実施</p>	<p>○市、JA、商工会議所、東海学院大学で構成する「各務原人参ブランド推進連絡協議会」を中心に、各務原にんじんのブランド化、地産地消、消費の拡大を図るため、料理スイーツコンクール、中高生のための料理教室、市内大規模商業施設内でのPRイベント等を実施しました。</p>	 
<p>充実した生活を支える産業活力づくり</p>	<p>時代に求められる新たな雇用対策事業の推進</p>	<p>○民間企業が開催する就職マッチングイベントのブースを確保し、市内企業の出展を支援しました。</p> <p>○岐阜県立国際たくみアカデミーとの連携・協力に関する協定の締結や、厚生労働省所管の東海職業能力開発大学校における学内業界研究会の開催など、技術系学生との新たなマッチング事業を実施しました。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策に関する市独自の支援として、市内企業の雇用を維持するため、国の雇用調整助成金の申請手数料の一部を補助しました。</p>	 
	<p>コロナ禍を乗り越えるための企業活動支援</p>	<p>○事業環境の変化に対応するために、市内企業がセミナーや実践的な勉強会を通じて自社の技術を生かしながら製品やサービスをブランド化し、新たな市場を開拓する取り組みを支援しました。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策の市独自の支援として、国が実施する中小企業生産性革命推進事業の交付を受けた事業者に対し、補助対象経費の自己負担額の一部を補助するとともに、航空機関連企業に対し、品質規格（JISQ9100）の審査費用の一部を補助しました。</p>	 
<p>便利で快適に暮らせる都市基盤づくり</p>	<p>新たなデマンド型交通システム「チョイソコかかみがはら」運行エリア拡充</p>	<p>○令和4年10月からの須衛・各務・八木山エリアへの拡大に向けて、停留所の選定やスポンサーの獲得など運行の準備を進めました。</p>	

<p>広域幹線道路整備の推進</p>	<p>○交通の利便性や安全性を向上させ、広域ネットワークや良好な市街地の整備を推進するため、都市計画道路日野岩地大野線の整備を進めました。 ○都市計画道路岐阜鷺沼線等の広域幹線道路について、県施工区間の早期整備を県に要望しました。</p>	<p>11 住み続けられるまちづくりを </p> <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう </p>
<p>新たな土地の有効活用の推進</p>	<p>○各務山の採石場跡地の有効活用を図り、雇用機会の創出と地域経済の発展のため、各務原市土地開発公社が主体となり、各務山土地造成事業に着手し、工業用地の分譲及び販売を行いました。 ○新たな工業団地へのアクセス向上と市内交通の円滑化を図るため、各務山を南北に縦断する道路の整備を進めました。</p>	<p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう </p> <p>11 住み続けられるまちづくりを </p>

プラス 『未来を見据えた』まちづくり

<p>笑顔があふれる元気なまちへ</p>	<p>新型コロナウイルス感染症に伴う支援事業の継続実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルスの影響により離職された方で、市内介護事業所に介護職員として就職された方に、介護人材就職促進事業給付金を支給しました。 ○企業の雇用維持に対する施策として、雇用調整助成金（国）の申請手数料を補助するほか、経済対策として、IT導入補助金（国）、航空宇宙関連企業新ビジネス展開支援事業費補助金（県）等への上乗せ補助など、国や県の支援策の隙間になる部分について、市単独事業による支援を行いました。 ○コロナ禍における厳しい経営環境下にあっても前向きに採用活動を行おうとする市内企業を支援するため、企業説明動画を作成し、ウェブ配信しました。 	 
<p>「人とのつながり・地域とのつながり」を感じられる事業の推進</p>	<p>「人とのつながり・地域とのつながり」を感じられる事業の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○外国人も含めた全ての市民にとって住みやすいまちづくりの実現を目指すため、「多文化共生推進プラン」の策定を進めました。 ○空宙博において、おさんぽ感覚で気軽に楽しめるマルシェイベント「かかみはら おさんぽマルシェ」を新たに開催しました。 ○持続可能な自治会運営を行う上で参考とするための講演会を各務原市自治会連合会との共催で実施しました。 	  
<p>SDGsを意識した取り組みの強化</p>	<p>SDGsを意識した取り組みの強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○市全体のSDGs達成に向けた取り組みを推進するため、各務原商工会議所、東京海上日動火災保険株式会社と「SDGsの推進に関する包括連携協定」を締結しました。 	
<p>多角的な空き家対策事業の推進</p>	<p>多角的な空き家対策事業の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○空き家発生の予防や空き家の適正管理を推進するため、空き家相談会を開催したり、空き家所有者に対しては適正な管理を依頼しました。 ○空き家の有効活用や移住定住の促進による地域活性化を図るため、空き家を売りたい人と空き家を利用したい人をつなぐ「空き家バンク」の開設に向けた準備を行いました。 	
<p>通学路のさらなる安全・安心の確保</p>	<p>通学路のさらなる安全・安心の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の登下校における安全・安心を確保するため、市、保護者、学校、警察等が連携して実施する通学路合同安全点検などに基づき、通学路で危険性のある区間において路肩のカラー塗装や防護柵の設置を行いました。 	 
<p>デジタル化の推進</p>	<p>デジタル化の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○24時間365日いつでもどこからでも簡単な問合せや申請などを行うことができるよう、県や県内市町村と共同で、AIチャットボットやオンライン申請ツールを新たに導入しました。 ○コロナ禍における感染症予防対策や働き方改革を目指し、テレワーク環境の運用管理を行いました。 	 